

センターだより

第79号

令和6年12月13日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

「あおもり教育研究発表会2024」の様子

11月15日(金)に「あおもり教育研究発表会2024～未来につなぐ青森の教育～」が開催されました。

当日の参加やオンライン、オンデマンドでの参加を合わせ141名の方々から申し込みをいただき、盛大に開催することができました。

講師の小林先生をはじめ、発表者、御来場の皆様、誠にありがとうございました。



【センター研究発表】

センター研究発表では、「学校におけるICTの効果的な利活用」という全体テーマのもと、10の研究グループが発表を行いました。今後、研究成果を随時Webページに掲載していく予定です。

- ◆国語グループ ◆社会、地理歴史、公民グループ ◆算数、数学グループ ◆理科グループ
- ◆外国語グループ ◆音楽、図画工作、美術グループ ◆体育、保健体育グループ
- ◆特別支援教育グループ ◆特別の教科 道徳グループ ◆家庭、技術・家庭グループ

【研究員研究発表】

研究員研究発表では、8名の2年目研究員が研究発表を行い、教科指導や生徒指導、ICT等に関する研究の成果が示されました。メモを取りながら熱心に発表を聞いてくださった方もたくさんおり、どの会場でも活発な質疑応答が行われました。

- ①中学校における不登校の予防的支援に関する研究
－学校風土の可視化に対応した授業改善を通して－ (教育相談課 研究員 大高 将紀)
- ②小学校第6学年理科において、科学的に考察する力を高める指導法の研究
－結果について多面的に考える活動を通して－ (義務教育課 研究員 秋山 英子)
- ③小学校算数科におけるUDLガイドラインに基づいた授業実践の有効性に関する研究
－児童の学習意欲の変容に着目して－ (特別支援教育課 研究員 氣仙 泰介)
- ④中学校におけるいじめ未然防止の取組に関する研究
－自己有用感を育む異年齢集団活動を通して－ (教育相談課 研究員 目時 仁)
- ⑤中学校社会科地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」の単元において、考えを表現する力を育成する指導法の研究－「問い直し」で根拠を明確にする学習活動を通して－ (義務教育課 研究員 長尾光一郎)
- ⑥小学校体育科表現運動領域「表現」において「伝える力」を高める指導法に関する研究
－集団思考場面の充実に向けたタブレット端末活用による授業実践を通して－ (産業教育課 研究員 茶谷眞由子)
- ⑦保護者と学校の信頼関係構築に関する研究
－小学校第1学年保護者の学校に対する安心感を促進する取組を通して－ (教育相談課 研究員 板垣 彩)
- ⑧中学生が自己決定し行動する力の育成に関する研究
－AARサイクルを活用したプログラムの作成・実践を通して－ (教育相談課 研究員 安田 麻衣)



【講演会】

今年度は「クラウド活用を基盤とした学習者主体の授業をデザインする」と題して、放送大学准教授 小林祐紀 氏に御講義をいただきました。自ら学び続けながら、他者と共に学び未来を切り拓く人間の育成を実現する教育の在り方とはどのようなものなのか、豊富な実践と研究の中で得られたデータや現場の変化とともに「学習者中心」、「探究的な学び」、「自己選択・決定」、「個別最適な学び」等を可能にするICT活用例を示しながら御説明いただきました。講義は、教師の意識変革、ICT活用のより一層の普及の必要性について深く考えさせられるものでした。



小林 祐紀 氏



センターセミナーの様子

セミナーⅠ 不登校児童生徒への支援

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏

7月27日（土）に花輪敏男先生を講師に迎え、これまでの経験を踏まえ教師や家族の具体的な対応をまとめた「FR式不登校対応チャート」を中心に、「不登校児童生徒への支援」というテーマで御講演いただきました。

講演を通して、学校・家庭・専門機関との連携の必要性、不登校児童生徒の自立に向け、自主性を育むための具体的な言葉がけなどを示唆していただきました。

【参加者の感想】

- ・不登校の子に対する接し方や考え方を改めることができました。また、保護者の方の接し方も勉強できたので、保護者と同じ方向を向いて対応できるので、とても助かりました。
- ・不登校対応では専門関係機関との連携はしっかりと取りながら、学校が主体になっていくことを肝に命じて取り組んでいきたいと思ひます。



セミナーⅡ もっと聞きたい！ 授業のユニバーサルデザイン Vol.2 ～あらためて「共有化」を考える～

星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 氏

8月24日（土）に阿部利彦先生を講師に迎え、「もっと聞きたい！授業のユニバーサルデザイン Vol.2～あらためて『共有化』を考える～」をテーマに御講演いただきました。

各地で取り組まれている具体的な実践事例を交えたお話を聞くことで、「共有化」を取り入れた授業づくりをするためのヒントをたくさん得ることができました。アンケートでは、参加者から実践の参考になったという声が多く寄せられました。

【参加者の感想】

- ・共有化のためには学級の雰囲気作りが大切だということを再確認できました。自分自身のファシリテーション力も向上させたいと思ひます。
- ・集団肯定感を育てるために具体的な事例を挙げて説明いただいたので、どんどん実践していこうと思ひました。
- ・自分もこんな授業をやってみたいと思ひましたし、ワクワクしました。学校に戻ったら先生方にも伝達します。

